

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述, 選択, 計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

今年度は, 論述問題, 計算過程を記す問題がなかった。

その他トピックス

スフィンゴ糖脂質を構成するフコースは, 実際は「L-フコース」であるが, 「D-フコース」として出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算	硫化物の反応 結晶 電池 電気分解	化学	金属硫化物の反応, イオン結晶の限界イオン半径比, 閃亜鉛鉱型構造をもつ ZnS の密度などに関する計算問題と, 鉛蓄電池による 2 つの並列接続の電解槽を用いた電気分解に関する内容である。	やや易
II	記述 選択 計算	化学平衡 (吸着平衡)	化学	(a)で吸着平衡について, (b)で化学平衡について確認させ, (c)で化学平衡と吸着平衡が組み合わさった, 平衡の移動を考察する内容である。	やや難
III	記述 計算	脂肪族化合物 芳香族化合物	化学	(a) アセタール, ヘミアセタール, アルデヒド間の平衡で存在する化合物の構造を推定する内容である。 (b) ラセミ体のアセチル化に関する反応量計算についての内容である。	標準
IV	記述 選択 計算	糖 脂肪酸	化学	スフィンゴ糖脂質を題材にした, 糖の構造や, ヨウ化メチルによるメチル化部位の数からの血液型の決定, および, 不飽和脂肪酸の分子式の決定などの内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学平衡に関する学習は深めておくこと。
3. 論述問題の対策には, 平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験に対する探究的な姿勢も養っておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。